

新年のご挨拶



総長 倉智 博久

皆さま、明けましておめでとうございます。清々しい気持ちで、2022年の新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年も多くの患者さんをご紹介いただくなど、当センターの運営にご協力いただき、ありがとうございました。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

昨年、当センターは設立40周年を迎えました。これも、連携施設の皆さまの支援のお陰さまで。厚く御礼申し上げます。今後も、皆さまのご期待に応えられるよう職員一同心を合わせて50、60周年を目指して努力いたします。

昨年も一昨年に続いて新型コロナの猛威が続き、世界中で医療のみならず社会や経済へ甚大な被害を与えました。皆さまの施設にも、大きな影響があったことと拝察いたします。当センターが小児感染者の入院を重症者に限っていた間は、多くの連携施設で軽症・中等症の小児患者の受け入れにご協力いただいたことと思います。ありがとうございました。当センターでは、第3波までは大きな困難は感じませんでしたが、大阪府で医療崩壊が起こった第4波からは状況が変わり、妊婦の感染者を診療する機会が増えました。第5波では小児の感染者が大幅に増え、当センターでも大阪府の要請を受けて、それまでの6床の受け入れに加えて25床の外科病棟もコロナ患者専用としました。このため当センターの通常診療は制限せざるを得ず、多くの患者さんにご迷惑をおかけしました。今は通常診療に戻っていますが、この状況が早く終息してくれることを願っています。

著しい少子・少産への対応は、周産期・小児を専門とする施設の課題です。さらに、医師の働き方改革と地域医療構想への対応も求められます。わが国の出生数は、当センターの歴史の間だけでも半減に近いという著しい減少です。一方、地域医療構想からは、とくに周産期・小児医療施設は集約化が進むであろうと思われます。2024年に迫っている医師の働き方改革への対応も困難な課題です。当センターは連携施設のご協力のもとで、高度・専門的な医療を提供しつつ、この時代の変化に対応した柔軟な姿勢で幅広い患者さんを受け入れていきたいと考えています。

いくつかの困難がある状況下ではありますが、当センターでは将来の病院の建て替えに向けた準備も粛々と進めていきたいと考えています。本年も、皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域と連携して、母子保健を充実させます。
- 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。

診 療 科 の 紹 介

泌尿器科

当科では、小児の腎・尿路系疾患ならびに生殖器系疾患に対して幅広い活動を行っています。

腎・尿路系の代表疾患は水腎症、多嚢腎、巨大尿管、膀胱尿管逆流、尿管瘤、後部尿道弁などで、出生前に超音波検査で見つかる場合も少なくありません。産科、新生児科と協力して胎児に対しても積極的に診療に取り組み、豊富な経験を生かして知識の提供や治療方針の選択に関するアドバイスを行っています。生殖器系疾患の主なものは停留精巣、尿道下裂などで、乳児期より多くの手術を行っています。さらに、性分化疾患（disorders/differences of sex development :DSD）に対しては日本でも有数の試みとなる多職種協同のチーム医療に努めながら細やかでかつ迅速な対応を心掛けています。また、ストーマを有する症例に対しては特殊外来を設け、排泄に関する相談・管理を担っています。2015年には泌尿器科主導で生体腎移植を再開しました。

学会活動も盛んで、2016年と2018年に臨床部門で日本小児泌尿器科学会の学会賞を得ました。

現在は常勤医3名、非常勤医1名、レジデント1名の5人体制で診療に従事しています。2020年の年間手術件数は451例、初診患者数は748名で、コロナ禍にも大きな減少はみられませんでした。

（泌尿器科 主任部長 松本 富美）



泌尿器科スタッフ

言語聴覚士 (ST) の 紹 介

当センターでは常勤4名、非常勤5名の言語聴覚士がリハ・育療支援部門に所属しており、普段は口腔外科と耳鼻咽喉科に分かれて仕事をしています。それぞれに専門分野があり、口腔外科では口唇・口蓋裂のある患者さんの言語指導、耳鼻咽喉科では聴力検査や聴覚障害のある患者さんの言語指導を行っています。



言語聴覚士スタッフ

さらに、口腔外科、耳鼻咽喉科に共通の言語疾患として、言語発達遅滞、構音障害、吃音なども治療の対象としています。これらの言語疾患は、地域の先生や公的機関から数多く紹介をいただいています。

言語発達遅滞では、言葉が出現する前の発達段階の患者さんや視覚的な認知機能に比べ、言語機能の発達の遅れが大きい患者さんなど、様々な方を対象としています。その患者さんの最大限のコミュニケーション機能が引き出されるよう取り組んでいます。構音障害では発達段階に応じて、必要な指導を行っています。また、吃音では、幼児期には環境調整を中心に、学童期以降には保護者と本人に対する助言・指導を行っています。保護者の方に早い段階で、吃音のある患者さんに対する良い対応を知っていただくことが大切です。

ことばの問題について心配な場合は口腔外科または耳鼻咽喉科へご紹介ください。

（言語聴覚士 井上 直子）

当センターにおける新型コロナウイルス感染者への対応（第5波）

日本では7月から新型コロナウイルス感染者数が大幅に増加し、いわゆる第5波を迎えました。特徴として、小児の陽性者数がこれまでになく急増し、8月末には大阪では新規陽性者のうち、約25%が10代以下となりました。当センターは、大阪府と連携し、小児重症患者の受け入れを担っていましたが、府からの要請を受け、9月1日より、病棟の1つを軽・中等症専用とし、新たに25床の運用を開始しました。その間、急がなくても大丈夫と考えられる一部の手術、検査を延期していただきました。ご協力くださった患者さんに感謝申し上げます。

第5波では妊婦さんの陽性者数も増加しました。陽性の妊婦さんを収容するためには、妊婦さんの治療、お産時の対応、そして感染しているかもしれない赤ちゃんへの対応という3段階の体制が必要となります。当センターに入院した小児は数十人ですが、大部分の方が軽症ですみしました。妊婦さんは症状が重くなることもあり、注意が必要です。コロナ罹患中に産まれた妊婦さんもおられましたが、出生となった赤ちゃんが陽性だったケースはありませんでした。

第6波については予想が難しいですが、感染規模が更に拡大する可能性もあります。当センターは周産期、小児専門病院としての機能を果たすと同時に、引き続き新型コロナウイルス感染者へも柔軟に対応いたします。

(感染管理室長 / COVID-19 対策本部 野崎 昌俊)

News

ウレアプラズマによる宿主細胞死の回避 ～気配を消す流早産原因菌の戦略～

この研究成果は、10月11日付科学誌 Cellular Microbiology に発表されました

当センター・柳原格（やなぎはらいたる）部長を中心とする国際研究チーム（※1）は、流早産の原因として重要な細菌であるウレアプラズマが、感染した胎児や子宮の細胞の中で栄養を受け続けるために感染細胞を殺さないようしていることを発見しました。早産や赤ちゃんの合併症を予防する新たな治療の標的となると期待されます。

※1 米国 J Craig Venter Institute (John Glass 教授)、国立研究開発法人産業技術総合研究所 柿澤茂行主任研究員、Harvard大・MGH/ 近畿大学医・救急（濱口満英講師）



府民公開講座「第16回光明池セミナー」をWEB開催しました(2021年11月13日)



当センターでは、府民公開講座を開催し、地域住民の皆さまへ診療や研究で蓄積した医療情報をわかりやすくお伝えしています。今回は、「小児循環器系疾患」をテーマに、萱谷小児循環器科主任部長が「小児の心疾患～生活指導に役立つ病態のお話」、青木小児循環器科副部長が「不整脈・アブレーション・AED」について講演し、74名がオンラインで視聴されました。なお、「光明池セミナー」は、府立羽曳野支援学校との共催で、毎年11月に開催しています。

動画による説明を開始しました

当センターでは、治療、検査やケア内容について、患者さんやご家族により分かりやすく説明するための動画を作成しています。作成した動画は、タブレットの貸し出し（一部診療科）等により、院内で視聴いただけます。さらに、一部の動画は、YouTubeでの視聴（パスワード要）も可能です。

また、2021年12月には「初診の流れ～小児部門～」をホームページに公開しました。初めて当センターを受診する患者さんが、受診前に視聴していただくことで不安を軽減できればと考えています。

今後も少しずつ説明動画を増やしていく予定です。

なお、この取り組みは医療スタッフの負担軽減にも寄与するものと考えています。



内 容
全身麻酔を受ける患者さんへ
造血幹細胞移植
骨髄移植
ホルター心電図検査
在宅用人工呼吸器の回路交換手順
緊急入院オリエンテーション
形成外科 レーザー治療
帝王切開で生まれた赤ちゃんのケア
誘発分娩について
尿測定の方法と注意事項

2016年10月からFacebookの公式アカウントを開設し、継続的に広報活動を行っています。この公式アカウントでは、幅広い方々に当センターを知っていただくことを目的として、当センターの取り組みや各種イベントの活動報告など、様々な情報を発信しています。掲載情報は月2～3回のペースで更新し、新たな情報を提供するよう努めています。

公式 Facebook QRコード ▶



2021年12月からセンター公式LINEを開始しました。

入院・通院されている患者さんやご家族に必要な情報、お役立ち情報を配信しています。

公式 LINE QRコード ▶



大阪移行期医療研修会の開催報告とお知らせ

患者支援センターでは、大阪府からの委託を受け大阪府移行期医療支援センターを設置し、移行期医療について知っていただく研修会を主催しています。

去る11月20日(土)に「大阪における小児がん経験者の移行期医療を考える！」をオンラインで開催しました。



小児がん経験者の実情や自立支援の必要性、大阪府内科医会のアンケートの結果など、多くの情報を発信し、小児がん経験者を長期に支えるための小児科一成人診療科の連携の第一歩としてとても有意義な会となりました。

今回は以下のとおり Web で開催します。

【日時】2022年1月29日(土)15時～17時
【テーマ】「大阪におけるてんかん・神経筋疾患の移行期医療を考える！」
【対象】医療従事者

詳しくはQRコードをご確認の上、是非ご参加ください。



2021年度イブニングセミナーのご案内

※ ZOOM によるオンラインセミナーです。医療機関の皆さまに当センターを知っていただくことを目的に開催しています。ご参加をお待ちしております。

日程	テーマ	担当部署	講師
2月3日(木)	小児のてんかん ～診断と治療～	小児神経科	柳原 恵子
3月3日(木)	小児期発症疾患患者に対する小児婦人科の診療	小児婦人科	川口 晴菜

※テーマ、講演者については変更の可能性があります。ホームページをご確認ください。

【対象】医療関係者

【時間】17時45分～19時00分

【参加費】無料

【事前申込】必要 **各開催2日前まで**に下記アドレスに以下の項目を明記のうえ、お申込みください。

・受講希望日・職種・所属先・参加者名(フリガナ)

【申込先】大阪母子医療センター 患者支援センター
Email: chiren@wch.opho.jp

お申込みいただいたメールアドレスに開催前日までに参加URLをお送りします。

※大阪府医師会生涯教育研修システム1単位に認定されます。ご希望の方は以下の項目についてもご記入ください。

・チケット番号(地区番号2桁+医籍番号6桁)
・所属郡市区等医師会名

交通のご案内



診察時間：平日 9時～17時30分
予約受付時間：平日 9時～19時

地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪母子医療センター 患者支援センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町840

【初診専用】TEL: 0725-56-9890 (直通)

FAX: 0725-56-5605

【その他】TEL: 0725-55-3113 (直通)

FAX: 0725-56-7785

【医師相談窓口】E-mail: chiren@wch.opho.jp

医療者対象
ホットライン
(※24時間受付直通)

PICUホットライン
☎ 0725-56-1070

小児がん・白血病
ホットライン
☎ 0725-57-7677

心疾患ホットライン
☎ 0725-56-3833

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。